

(受付 2004年11月5日)

1. Cambridge, Corpus Christi College, MS. 402 (A)
2. London, British Library, MS. Cotton Cleopatra C. vi (C)
3. London, British Library, MS. Cotton Nero A. xiv (N)
4. London, British Library, MS. Cotton Titus D. xviii (T)
5. Oxford, Bodleian Library, MS. Eng. poet. a. 1 (V)

主なデータは5写本に共通する部分からのみ収集し、落丁その他で1写本でも欠けていたり、写本テキスト間に大きな違いがある箇所は除外した。また、ラテン文のデータも除外した。データはEETSの diplomatic edition から得たが、そのほかに T は写本のコピーを、V はファクシミリエディションを参照した。⁴⁾

1. paraph mark (¶) の使用

1.1 KG 写本の例

KG 写本におけるこの記号の使用回数は B の 8 回、R の 28 回、T の 20 回と少ないが次のような異なる二つの役割がこの記号に認められた。すなわち、(1) 上の行からの run-over を示す役割と (2) 新しいパラグラフあるいはトピックを示す役割である。(1) の役割の方がたとえば R では 20 回と優勢であった。

1.2 AW 写本の例

AW 写本におけるこの記号の使用回数は V が 1,108 回であり、他の写本 A (43 回)、T (57 回)、C (110 回) を大きく上回っている。このように写本によってこの記号の使用回数に大きな差があるが、KG 写本の場合と同じ役割で用いられている。後述するように V の用法には他の写本には無い特徴がある。

1.2.1 run-over を示す役割

この記号が次のように使われることがある。

[3] se uorð se ʒe mahen ne do ʒe ne ne þenchen na þing
þe ne con oþer uhtsong oðer ne ¶ bute slépen. (A f.12a 3)⁵⁾

この記号の右側の “bute slépen.” は上の þing に続く語である。A ではこのような例が多く見られ、総数 41 回を数えた。他写本では V に 37 例、T に 4 例見られた。上の行からの run-over があるにもかかわらずこの記号が用いられない例が C に 3 例、V に 1 例あった。

KG 作品と AW を収める T は同じ写字生によるものであるがこの記号は KG の場合と同様に AW でも run-over を示す記号として使われる例は少ない。

1.2.2 パラグラフを示す役割

この記号が新しいパラグラフあるいはトピックを示すものとして使用される例はあまり多くなく KG 写本 R では 28 例中 2 例、T では 20 例中 15 例であった。また、B では記号が 8 回使用されているもののこの用例は無かった。

AW の例では A が 3 回、T が 53 回、C が 110 回、V が 1,071 回と写本間でばらつきがある。V でこの記

号が多く使われているにもかかわらず、他の写本とこの記号を共有する例は C との20例に過ぎなかった。

KG と AW の写本では本文の文字より大きく、装飾した文字が新しいパラグラフあるいはトピックの始まりを示している場合が多い。調査した AW の 5 写本でこのような装飾大文字が現れる回数は A では127回、N では113回、T では35回、V では149回そして C では137回であった。そのうち 5 写本に共通して装飾大文字が現れる回数は32回を数えた。

V に現れるこの記号と他写本の装飾大文字の対応を調べると A とは14回、N とは12回、C とは32回となり、C の装飾大文字と対応する例が多い。また、C の paraph と他写本の装飾大文字の対応を見ると、A とは23回、N とは18回、V とは29回となり、V の装飾大文字と C の記号が対応する例が多い。

T の写字生は KG と AW にパラグラフを示す記号として用いることが多く、装飾大文字を使う例は非常に少ない。この写本のサイズは比較的小さい (112×88mm) 上に double column に書かれているため、スペースを広く必要とする装飾大文字は使われにくかったのかもしれない。

1.2.3 V の特徴

他の写本の装飾大文字あるいはパラグラフ記号と対応する例も少数ながらあるが、単独でこの記号が使われる例が V では圧倒的である。次のような例が V の特徴と考えられる。すなわち、V では文のはじめにこの記号を用いる例がある。たとえば

[4] ¶ Sum is old and atelich. And is þe lasse dred of. ¶ Sum is 3ong and louelich, and is neod better ward. (V f. 372ra 2-5)

また、次のような例も V の特徴と考えられる。

[5] ¶ w^t scheoting. ¶ w^t speres poynt. ¶ And wiþ swerdes egge. (V f. 374rb 67-68)

このようなことから、V では読み手に注意を促したり、キーとなる大事な語あるいは句を目立たせるためにこの記号が使われたと考えられそうである。

また、V には他の写本には現れない記号が使われている。通例、V の paraph は、二本の斜線上かその斜線を消すかのようにその直後に書かれている。この二重斜線は paraph 挿入を rubricator に指示する記号として写字生が書いたものと考えられるが、rubricator がそれを挿入しそこなった例が235例ある。次の例はその好例である。

[6] ¶ Persone. // Stude. ¶ Tyme. ¶ Manere. ¶ Tale. ¶ Cause. (V f. 386vb 57-58)

[7] // Of Envye. ¶ Of Wraþþe. // Of Sleuþe. ¶ Of Rechelesschupe. // Of Idel pouht. (V f. 388ra 35-37)

これらの例は V の paraph 使用の特徴も示しているが、paraph が挿入されず斜線がそのまま残っている。

V の二重斜線と他の写本の paraph との対応を見ると、C の paraph との対応が11回と多いが、装飾大文字と対応する例は A と N にそれぞれ 1 回と少ない。

1. 2. 4 paragraph 記号のまとめ

以上見てきたように、この記号の使用例は AW の場合写本によって大きく異なる。その働きは KG 写本で認められたそれと同じで、上の行からの run-over を示す働きと、新しいパラグラフあるいはトピックの始まりを示す働きが AW 写本でも認められた。また、V はこの記号を単独で使う例が非常に多く、文頭に使い文の始まりを示した例や、キーとなる語や句の前に使った例などは V のこの記号使用の特徴と考えられる。

2. punctus interrogativus (?) の使用

2.1 KG 写本の例

KG 写本のこの記号使用例はあまり多くなく、B が33回、R が8回、T が22回用いているのみである。調査した4作品を収めている B では多くの場合疑問文尾にこの記号が使われている。たとえば yes-no 疑問文20例中12例でこの記号が文尾に使われている。

2.2 AW 写本の例

AW 写本におけるこの記号の使用回数は A では178回、N では86回、T では138回、V では108回であった。C にはこの記号使用例はない。⁶⁾ 多くの場合この記号は KG 写本と同様次のように疑問文尾に現れる。

[8] Ant nis he fol chapmon þe hwen he wule buggen hors oðer oxe. 3ef he nule bihalden bute þ heaued ane? (A f. 56a 14) ⁷⁾

[9] for hwi deð he swa? (A f. 73b 21)

調査した5写本に共通する部分には114例の疑問文があり、この記号が文尾に現れる回数は A では90回、N では53回、T では65回、V では57回であった。

これらの疑問文を yes-no 疑問文 ([8]) と wh- 疑問文 ([9]) に分けてそれぞれの文尾での punctus interrogativus の使用を見ると yes-no 疑問文68例中 A では43回、N では23回、T では26回、V では32回使用され、wh- 疑問文76例中 A では47回、N では30回、T では39回、V では25回使用されていた。いずれの疑問文においても A では半数以上でこの記号が使われている。

KG 写本でも見られたことであるが、疑問文の最後には様々な句読記号——記号の種類が多い N では punctus interrogativus のほかに punctus, punctus elevatus, さらに colon が現れる——が使われる。この記号の使用例を持たない C には yes-no 疑問文の場合 punctus が使われた例が47例、punctus elevatus の使用例が9例、wh- 疑問文の場合 punctus が使われた例が49例、punctus elevatus の例が14例ありいずれの疑問文尾にも punctus が多く使われている。

2.2.3 punctus interrogativus のまとめ

5写本に共通する疑問文数は主には T と V の落丁により抑えられたがたとえば A の総疑問文数232例中 punctus interrogativus が文尾に使われる割合は67%と高く、punctus の23%を大きく上回っている。このことから疑問文の文尾には punctus interrogativus を振るのが一般的であったと思われる。

3. punctus elevatus (˙) の使用

3.1 KG の例

KG 写本の場合この記号の使用回数は作品によって違いが見られる。たとえば調査対象 4 作品を全て収めている B では *Hali Meidhad* の 252 回が他の作品 (72 回～84 回) を大きく引き離している。

KG 写本ではこの記号は従属節が主節の前に位置するとき従属節尾に, “se...se...” のような関連語法で対になっている語を分割するように, また主語と動詞の間に関係詞節や副詞句などが入っている場合節尾や句尾に使われることが多い。

3.2 AW の例

この記号の AW での総使用回数は A では 1,675 回, N では 2,397 回, T では 737 回, V では 2,317 回, C では極端に少なく 165 回であった。V には 3 葉 (fols. 389–91) の落丁 (960 行分) があることを考えると, いかにこの記号が多用されているかが分かる。

副詞節が主節の前に位置するとき, KG 写本の場合と同様この記号が副詞節尾に使われることが多い。

次は *þef* 節が主節の前に位置する環境で *þef* 節尾に punctus elevatus が使われた例である。

[10] *þef* dust of lihte þohtes windeð to swiðe up. flaski teares on ham. ne schulen ha nawt þenne ablende þe heorte ehnen. (A f. 85b 17)

調査対象 5 写本に共通する 108 例中, この記号の使用数は多い順に A, V, T, N, C となり, それぞれ 95, 91, 71, 68, 14 回であった。特に A と V での出現率は 80% を超え高かった。(KG 写本 B でのこの記号の出現率は 72% であった。)

総使用回数が最小の C では *þef* 節尾に punctus の使用が 51 例と多くたとえば A の 9 例を大きく引き離している。また C は punctus と punctus elevatus のどちらも使わない例も 43 例と多く, 他写本とは顕著な相違 (V は 3 例, A は 4 例, N は 6 例, T は 12 例) を見せている。

次のように *þef* 節が主節の後に位置する環境では両節の間に記号が現れない例の方が多い。

[11] Heh monnes messenger me schal hehliche underuon & makien him glead chére. nomeliche *þef* he is priue wið his lauere. (A f. 51a 8)

調査対象 5 写本に共通する 57 例中, たとえば A では記号が現れる例は punctus elevatus が 6 回, punctus は 9 回と少なく残りの 42 例では記号が使われていない。

また, 次のような副詞節が主節の前に現れる場合も punctus elevatus が副詞節尾に使われることが多い。

[12] Ah Sone se he eauer understont þ he beo wel acointet. he wule forbeoren ow leasse. (A 59a 21)

[13] hwen he ne mei nawt bringen to nan open vuel. he sput to a þing þ þuncheð god. (A f. 73b 9)

[14] þah he seo oðer here idele gomenes & wundres bi þe weie. he ne edstont nawt as foles doð. ah halt forð his rute & hiheð toward his giste. (A f. 94b 10)

“sone se” では共通する 12 例で A と V は全てで, また, N と T は 8 例で punctus elevatus が使われてい

る．同様に“hwen”の場合も36例中 A と V は32例，N は25例，T は19例で punctus elevatus が用いられている．多くが主節の前に現れる pah 節では21例中 A は19例，V は17例，N は15例，T は13例で pah 節尾にこの記号が使われている．いずれの例でも C は punctus を多く用いている．

次の例のように副詞節や副詞句が主語と動詞の間にある場合副詞節尾または副詞句尾に punctus elevatus が現れる．

[15] Ant godd wule as he ʒef ham.ʹ ʒeouen ow liht wið innen. him to seon & cnawen. (A f. 24a 13)

[16] ancren schule brihtluker for hare blindfellunge her.ʹiseon & understonde þer.ʹgodes dearne runes & his derue domes. (A f. 25a 4)

共通する37例中 V は36例，N は34例，A は22例，T は14例でこの記号が使用されている．また，この環境では V と N だけがこの記号を共有する例が15例と多い．

また，punctus elevatus は次のよう correlatives を分割するかのように使われている．

[17] Sum he is umben to makien se swiðe fleon monne froure.ʹ þ ha falleð I deadlich sar. (A f. 61a 15)

[18] He dude ʒef mare. ʒefus. Nawt ane of his.ʹah dude al him seoluen. (A f. 105a 6)

[19] se þe hul is herre.ʹse þe wind is mare þron. (A f. 47b 25)

“se... þet (þ)”の場合，共通する23例中 V は20例，N は19例，A は15例とこの記号使用例が多い（T は5例，C は1例）．“nawt ane...ah”の場合，共通の21例中 A と V は18例，N は12例でこの記号が使われている．T と C では punctus が punctus elevatus より多用されている．また，“se...se...”では共通12例中 A と V は11例，T は9例，N は8例と punctus elevatus の使用例が多い．

次のような場合，“ah”の前に punctus elevatus が使われることが特に A で多い．

[20] Bacbitunge. & fikelunge. & eggune to don uuel.ʹne beoð nawt monnes speche.ʹah beoð þe deofles bleas & his ahne steuene. (A f. 21a 22)

共通28例中 A は24例，V は18例，N は17例，T が10例でこの記号が振られている．

上述したように主語が副詞節あるいは副詞句によって動詞から離れている場合動詞の前，すなわち副詞節あるいは副詞句の終わりに punctus elevatus が用いられるが，次は主語と動詞の間に両者を分けるものがない場合でもこの記号が使われた例である．

[21] Biginnunge & rote of al þis ilke reowðe.ʹwes aliht sihðe. (A f. 14a 10)

主語と動詞の間に punctus elevatus が2写本以上で使われている41例を対象に見ていくと A と N・V の間に他の環境では見られない違いがあった．すなわち41例中 N と V ではそれぞれ37例，39例でこの記号が使われているが，A ではこの記号が現れる例は少なく（7例），大多数（31例）は記号が用いられていない．この環境でも上述のように N と V だけがこの記号を使用している例が23例と多い．

主語と動詞の間に副詞節あるいは副詞句がある場合動詞の前すなわち副詞節あるいは副詞句の終わりに punctus elevatus が使われることについては上述の通りであるが，主語と動詞の間に関係詞節が現れる環境でもこの記号が次のように関係節尾に使われている．

[22] te lauerd þ al þe world ne mahte bifon.' bitunde him inwið hire meidnes wombe. (A f. 19b 17)

この記号が2写本以上で使われている42例中、Vは35例、Aは31例、Nは30例、Tは21例で *punctus elevatus* が関係詞節尾に用いられている。

次のような例でも *punctus elevatus* が “hwase” 節尾に使われている。共通の24例中、Aは23例、Vは21例、Nは15例、Tは12例でこの記号が現れる。

[23] Hwa se eauer deieð ine godd. & o godes rode.' þeos twa ha mot þolien. scheome for him & pine. (A f. 96b 14)

3.2.1 *punctus elevatus* のまとめ

AW 写本の調査から *punctus elevatus* は主に (1) 副詞節が主節の前にあるとき両節を分ける記号として、(2) 主語と動詞の間に関係詞節、副詞節、副詞句が介在するとき主部と述部を分ける記号として、さらに (3) 相関語句で対になる語句を分ける記号として使われることがわかった。しかし、この記号が分割する個々のまとまりはそれ自体自立した存在ではなく、それに続くまとまりを必要とする存在である。つまり (1) の環境では副詞節それ自体が自立した存在ではなくそれに続く主節を必要としている。また、(2) の環境でも主部のみでは自立できず、それに続く述部が必要である。同じく (3) の環境でも一方は必ず他方を必要とする。

したがって、*punctus elevatus* は分割の記号ではあるが、分割された個々のまとまりがお互いを必要としている関係であることを示す役割を持つと考えられる。

(未完)

注

1) 太字は *littera notabilior* を示す。省略は斜体文字を使用することなく expand している。

2) S. T. R. O. d'Ardenne and E. J. Dobson, eds. *Seinte Katerine*, EETS, SS7 (1981).

3) KG 写本のデータはすべて以下による。

Yoshimi Nakano 'Punctuation in Middle English Manuscripts [I]—*Seinte Katerine*—', 岩手医科大学教養部研究年報26号 (1991).

Yoshimi Nakano 'Punctuation in Middle English Manuscripts [II]—*Hali Meiðhad*—', 岩手医科大学教養部研究年報27号 (1992).

Yoshimi Nakano 'Punctuation in Middle English Manuscripts [III]—*Sawles Warde*—', 岩手医科大学教養部研究年報28号 (1993).

Yoshimi Nakano 'Punctuation in Middle English Manuscripts [IV]—*Seinte Margarete*—', 岩手医科大学教養部研究年報30号 (1995).

4) A: Tolkien, J. R., ed. *The English Text of the Ancrene Riwe*, EETS, os 249 (1962).

C: Dobson, E. J., ed. *The English Text of the Ancrene Riwe*, EETS, os 267 (1972).

N: Day, M., ed. *The English Text of the Ancrene Riwe*, EETS, os 225 (1957).

T: Mack, F. M., ed. *The English of the Ancrene Riwe*, EETS 252 (1963).

V: Zettersten, A. and B. Diensberg, eds. *The English Text of the Ancrene Riwe*, EETS, os 310 (2000).

Doyle, A. I., *The Vernon Manuscript: A Facsimile of Bodleian Library, Oxford. MS Eng. Poet. a. 1 With an Introduction by A. I. Doyle* (Woodbridge, 1987).

- 5) 話題にしている記号が現れる行数のみ表示している.
- 6) Dobson p. 1 の note 2 を参照.
- 7) 以下では 5 写本の代表として A の例を示す.